

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム武蔵ヶ丘		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北1丁目8-1		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3つの理念「私たちは、安心・安全をテーマに、ほっとできる心地よい空間づくりを目指します。」「人生の大先輩である年長者を敬い、お一人お一人の尊厳を大切にします。」「自由で自分らしくいられる、否定しない介護を目指します。」を掲げ、ご利用者様が、毎日楽しく元気に暮らして頂ける様に、職員で力をあわせ頑張っています。ご利用者様が、生活の中で何らかの役割や楽しみを持って頂ける様に工夫しています。毎日の生活の中で、レクリエーション、起立運動、体操、カラオケ等を活発に行われ、みんなと一緒に楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4月の熊本地震はホームへも被災した職員の離職による人員不足という痛手をもたらしたが、管理者を先頭に「今いる方々を全力で守る」という強い決意のもと苦難を乗り越え、徐々に元の生活を取り戻しつつある。開所から2年地域の中に少しづつ根を下し始めたホームは、これまでに経験したことのない大惨時に直面したが、直後に独居者や住民にホーム内を開放するなど地域貢献を果たしている。また、同時に入居者の離設により地域の人々の協力で大事の前に回避できたことで、改めて地域との繋がりの重要性を実感する年でもあった。食事を共にする中で「家族がここに連れてきたばってん、よか所でもとても良かった」と、笑顔で語る入居者の思いに応えるべくホームの更なる邁進を心から願いたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で、出勤の全職員で理念を唱和し、理念の意識付けと共有を行い、理念に沿った介護を行っている。	職員は毎朝の申し送りで三項目の運営方針を唱和した後、各ユニットで仕事をスタートさせている。本年度、初めて入居者の離設を経験したことで、改めて日頃の地域交流の重要性を一人ひとりが認識しており、大事に至らなかったことへの感謝と、地域の中でホームが果たすべき役割について、更に考える機会ともなっている。	26年11月の開所時に掲げた理念及び運営方針を、ケアの柱として入居者への支援にあたっている。丸2年を経過したことから、内容の継続を含めた見直しの機会も必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会と協力しながら、地域清掃や行事に参加している。ボランティアの方々の訪問時には、一緒に楽しい時間を過ごしている。	住宅地の一角にあって地域からの認知度も徐々に上がってきており、職員は近隣者との日頃の挨拶や、車両の通行には特に注意を払うよう心掛けている。自治会への加入、地域の清掃活動への参加や、震災などで途切れたボランティアの受け入れ再開など、“今できること”で地域との繋がりを見出している。音楽ボランティアの来訪は定着し、毎回入居者が楽しみにしている。	地域の保育園との交流が現在途絶えているとのことであり、コンタクトを取りながら再開に向けた取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、事業所内の状況報告を行い、認知症の方の行動や様子等を説明して、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催。ホームの現状報告を行い、アドバイスや意見を参考にしている。	二ヵ月ごとの定期開催が実現しており、4月の震災後も参加者の協力の元通常通り開かれている。ホームに身近な隣保班長や区長・民生委員からは地域情報と共に、車の交通量を心配する声や、行政からの災害時や不審者などへの対応策の強化について貴重な意見が出されている。	管理者は参加者からの意見が、今後の対応に貴重な役割をしていると語り、事故報告などについても正確に伝えることでホームの透明性を図っている。今後は会議内容を全家族へ開示したり、交流の途絶えている保育園関係者に再開の機会として会議参加を依頼するなど働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回参加されており、相談や確認事項を密に行っている。	行政からの運営推進会議の参加により、ホームの現状を直に見てもらいながら、情報を共有している。管理者は直接役所を訪れ、事故報告などの詳細な内容を説明しながら、ホームの透明性を図り適切な指導や助言を得ている。また、外部評価の結果について担当者と直接顔を見て報告し、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会で、職員全員が理解し、ケアを実践している。玄関・窓の施錠については、1度は時間による關鍵の改善を図ったものの、7月の相模原障害者施設事件や9月の当施設での離設後転倒によるケガの後、安全確保の為に現在施錠している。	身体拘束について正しい認識をもってケアにあたるよう勉強会の機会を設けている。玄関の施錠について一度は日中の解除に至ったものの、離設や他事業所での事件などを考慮し、再び施錠する形をとっている。2ユニットが広い1フロアで過ごすホームは互いが行き来し、食事時の入居者同士の会話からもここでの生活を喜ぶ声が聞かれた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い、虐待の意識付けをしている。また、日々の介助で職員がストレスにならない様職員同士の声掛けや励ましを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状この制度の対象者がいない為、知識・理解不足と考えられる為、早急に学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書は双方納得の上で契約している。また、契約前に管理者、ケアマネで何度もご家庭に訪問し、話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。面会時には、管理者や職員がご家族と話をする様に努めている。	職員は家族の面会時に入居者の近況に触れながら、意見の引き出しに努めており、出された要望には家族にも協力を仰ぎながら、早めに対処するようにしている。入居者の意見は普段の会話から聞き取り、支援に反映させている。	家族からの要望に職員の名前が良く分からないといった声があがっており、職員紹介を兼ね玄関内に掲示する等の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回代表者宛に要望書等書いた手紙を提出して、対応して貰っている。また、ホームの全体会議で、意見や改善点を話し合っている。	バタバタであった震災後の職員体制も少しずつ落ち着いて来ており、管理者は長期的に仕事が出来るホームにしていきたいとして、職員の意見をまとめながら上層部へ声をあげ、福利厚生の実施や風通しのよい職場環境を目指している。また、地域からの声にも耳を傾け、出された意見や苦情について早急に話し合い対処することでホームへの信頼に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して長期に働ける環境の一つとして退職金制度を導入。また、会議手当や資格取得者への祝い金等導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な外部研修への参加ができる様に、費用負担を行っている。また、ケアに関する事だけではなく、社会人としてのマナー研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状参加機会を持っていないが、今後グループホーム連絡会等への参加を進めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を、スタッフ間で共有し、こまめに声掛け、不安などないか見守りを行い、統一したケアを行うとともに、御利用者どうしの交流や居場所作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で、御本人・御家族と面談し状況把握や支援の御意向の確認施行する。ホームで出来る事・出来ない事を明確に説明しご理解を頂く。全職員への情報の周知と共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに入居前カンファレンスを開催。情報をもとに必要な支援を全職員で討議し、情報の再確認と共有、統一した支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等は、職員と一緒にこなう様にしている。また、出勤時はお1人お1人に挨拶をして1日の始まりの関係作りから心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と御利用者の思いを受け止め、面会時には家族で話が出来場所作りをするとともに、生活の様子を伝え、御家族と御利用者の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人・なじみの場所等の把握を行い、定期的な面会や外出等の働きかけを随時施行し、断ち切らないように努めている。全職員への生活歴等の情報の共有を行っている。	家族の面会が多いホームでは、一緒に散歩を依頼したり、外出して友人との再会を楽しむなどの支援が実現している。また、自宅への立ち寄りや冠婚葬祭への出席など、絆が途絶えることのないよう支援している。入居後もこれまでのこだわりの暮らしが出来る限り継続できるよう、生活歴を共有しながら個々の思いに応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し、テーブルの位置を配慮している。トラブル発生時は、即座に職員が間に入り、孤立しない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、御家族が訪問されることがある。ご家庭や退所された方の入所先相談員と情報交換・提供等実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、お一人お一人の思いの把握に努め、寄り添いながら安心して生活できるよう支援に努めている。定期的なカンファレンス会議にて意向等検討し、情報共有・統一した支援をしている。	職員は入居者との普段の会話の中に、ホームでの暮らしに必要な物や外出・行事などの希望をさりげなく盛り込み、引き出しながら支援に反映させている。表現困難な入居者の顔の表情や仕草から読み取りながらプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様・御家族・担当ケアマネ・利用されていたサービス事業所・主治医等、関係各位から情報収集し、ご本人様の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまで生活されてきた情報や嗜好等を取り入れ、ご利用者様にあった過ごし方が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者、御家族より、生活歴などの情報を聞き取りし、御利用者の理解に努めている。日々の申し送りでのケアの検討やカンファレンス、モニタリングを行い、アセスメントを修正しながら介護計画を作成している。	計画作成担当者は本人・家族の意向をもとにケア会議で見た個別に必要な支援内容を計上し、担当職員と共にプランを立案している。一例として入居者の残存機能を活かしながら居室の整理をされる方に不足を補いながらホームの一員として生活する喜びを掲げている。家族の面会時にはホームや入居者の現状を包み隠さず伝え、プランに対する忌憚のない意見をもらうよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を経過記録に記載を行いながら、気づきや問題点あればタイムリーにミーティング開催し全職員で共有する為、介護記録や連絡帳等へ記載し、全職員で共有し支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が関われない病院受診や緊急時の受診、訪問マッサージ、訪問理美容、身の回りの必要品の買い物等利用者の状況に応じて、ニーズを考慮しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園、子育て支援センター等の交流をしている。また、職員の子供達との交流も図り、外部との隔たりが無いようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が主治医の方が大半で、健康管理については、週1回の往診で対応し、御家族へ報告している。状態に応じ、御家族の同意を得て、専門医の受診に付き添ったり、情報提供書を提供している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、現在は殆どの方が協力医による2週間に1度の往診を受けている。結果で気になることや薬の変更などがあれば家族へ連絡を行っている。また、訪問歯科や食後の歯磨きなど口腔ケアの徹底からも入居者の健康を支えている。朝食前にはバイタルチェックを行い、数値や表情など気になる方には、10時や入浴前など、再度実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、入浴や生活の中で、ご利用者様の身体状況観察と異変の早期発見に努め、異変があった場合には速やかに看護師に伝え、ご利用者様へ適切な対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院生活からの入居にあたり、入院先の関係機関と連携、情報交換を行い、スタッフ間で情報共有し、安心したケアが提供できるようにしている。御利用者が入院されると、面会を行い、入院先の相談員、看護師から情報をえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化については、御家族や主治医との連携を行い、想定される状態等十分な説明をし、理解して頂ける様に、支援に取り組んでいる。	重度化や終末期支援については、入居時に指針をもとに法人部長より説明が行われている。家族の思いはその都度変化するものであり、状況を見ながら再度確認を行っている。実際重度化された場合は、往診時に家族も参加してもらい説明や今後どのような対応が望ましいかなど話し愛がされている。	今後も人生の先輩の最終を支援するということに誇りと自信をもって、出来る最良の支援に取り組んでいただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や特変時に備え、緊急時の勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立会いの訓練を行なっている。また、消防機器の点検を業者に依頼し、何時でも使用可能な状態にしている。	年2回避難訓練を実施している。今年度は9月に日中想定での総合訓練が行われ、次回は夜間想定を予定である。今回の熊本地震では、大きな被害は免れたものの、断水などにより入浴支援などへ1ヶ月ほどの支障を来している。	まずは火を出さない事や、避難誘導の際妨げになるものはないかなど、確認の必要があると思われる。地震や台風・豪雨など自然災害についてもあらゆる想定をし、入居者や支える職員の安全確保に努めていただきたい。また、日々の安全や防災チェック表などにより職員の意識づけを図ることも必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに留意し、利用者様お1人お1人を尊重した声掛けを行い、意思確認をした上で支援していく様に努めている。	入居者の呼称はさん付けとし、排泄時の誘導や声かけも本人や周囲にも配慮しながら行っている。また、職員主導ではなく、ゆとりを持つ発言を促すよう努めている。職員の守秘義務などについては、入職時や会議など法人全体で周知徹底、指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間、衣類等を本人様希望で決めて頂いている。レクレーション等の内容も利用者様がしたい事を確認し、決めて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や訴えに耳を傾け、安心して頂ける様に対応している。体調や心身の状態に合わせて、1日1日を楽しく過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服や季節に合わせた服をお聞きし、気に入ったものを着て頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の方が、食事の楽しみの中で、好き嫌いの多い、ピーマンや人参はわからないように、工夫して提供している。盛り付けや色彩に気を配り、食事の時に様子観察している。月の初め、誕生日、敬老会などでは、赤飯を提供している。	法人栄養課で作成した献立を参考にしながら、専任者を中心に調理が行われている。食材はオンライン発注と地域の商店も利用している。食事は入居者の楽しみでもあり、盛り付けや1日や行事食(誕生会・敬老会など)では、赤飯を提供している。苦手な食材には代替え食や切り方など工夫をして対応している。職員は見守りや介助を行いながら持参した弁当などを一緒に食べている。「ここのご飯はとても美味しかね〜!」「苦手なものも食べなんよ〜!」入居者同士の会話からも日常の食事光景が伝わってきた。	現在、職員は持参した弁当などを一緒にとっているが、今後は職員も同じ物を食べることで更に会話も弾み入居者にとっても嬉しい時間になると思われる。検討の余地があれば進めていかれることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を使用し、必要に応じて刻み食やミキサー食を提供している。水分量については水分補給時間を設定し、摂取頂いているし、必要に応じ水分チェック表に記録し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。また、夜間に義歯の洗浄を行っており、歯科医の指導の下、歯ブラシだけではなく、歯間ブラシやスポンジを使用し、適切なケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて管理し、排泄間隔の把握と声掛けを行い、体動や訴えに直ぐに対応して、習慣・トイレの前兆等を活かした支援を行なっている。	声かけや誘導。自立された方の継続など個々の状況に応じた排泄支援に努めている。日中は布パンツやリハビリパンツにパットを組み合わせ、トイレでの排泄を基本としている。また、動きを妨げず快適に過ごせるような組み合わせにも配慮している。夜間は安全面からポータブルトイレやオムツを使用する方もおられる。排便が滞りがちな方へは、マッサージや牛乳、青汁の摂取など薬に頼らない取り組みに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が立てた献立を使用しており、便秘予防に、個々に応じて毎朝麦茶や牛乳を飲んで頂いている。毎日の体操を促したり、腹部マッサージ等適宜行なっている。食事についても、野菜等多く取れる様献立を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ケガや転倒の無い様に気を配り、ゆったりと気分転換になる様な入浴支援に努めている。	入居者の体調や身体状況に配慮しながら週2～3回の入浴を支援している。浴槽に入りゆっくりと入浴される方、身体に負担のないようシャワー浴を併用の方など様々であるが、可能な限り希望の時間や職員との会話など、個別支援を充実した入浴支援にあたっている。	熊本地震の際は断水もあり入浴できない日が続き、清拭や入浴外出などでの対応を行っている。管理者は今後、季節風呂を取り入れながら、入居者の楽しみを増やして行きたいとしている。菖蒲や柚子をはじめ、花や茶風呂など職員のアイディアを活かした季節湯支援の実現に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のご気分や体調を考慮し、照明や室温、安全に注意して、静かにゆっくり休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人が服用されている薬の効能、副作用について薬局からの情報で確認している。薬の変更や屯用薬についても医療用ノートへの記載や朝夕の申し送り時に確認し前職員で把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の身体状態に合わせ、洗濯物たたみや新聞折り、ゴミ箱作りを手伝って頂いたり、塗り絵・折り紙・トランプ・カラオケ等楽しんで頂ける事を、毎日取り入れながら生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のおかげで、ホーム近辺を散歩したり、外泊されたりして利用者様の声を大切にしている。また、職員がホーム近辺と一緒に散歩したりして支援している。	ホーム周辺は交通量も多くなっているが、個別や小人数で安全面に配慮しながら散歩や散策を行っている。その際、道端で草花を摘むことも楽しみにされている方もおられる。面会時に一緒に散歩に出かけたり帰省、外食など、家族の協力による外出も行われている。今年度は震災の影響もあり、思うような外出支援は少なかったようである。	今後は法人車両を使用し外出の幅を広げたいとしており、実現に期待したい。また、家族や地域の人々の協力を得ながら、遠出に限らず短かな外出など引き続き個々に応じた支援に努めていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者が管理されている方もあるが、御自分で管理できない方は、預り金規定に従い預かり、御利用者の状態に応じた、買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、家族への電話の支援や手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたぬり絵や共同作品を作り、会話の中でも季節を感じて頂ける様心掛けしている。また、大きな音等を出さない様にし、落ち着いた雰囲気作りに努めている。	木の温もりを大切にしたホーム内は、共同製作品の掲示や季節の飾りが入居者や来訪者の楽しみにもなっている。開放的な造りと明かり窓や高い位置の換気窓など自然を取り入れながら最適な室温管理もなされている。テーブルや洗面所などホーム内の随所には小菊など季節の花が飾られていたが、「職員さんが持って来ったよ！美しかなね～！」と、ホームの日常を伝えて下さる表情が印象的であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性等を考慮し、食事テーブルやリビングソファ等、気の合った仲間での会話やお茶の時間が楽しめる様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、利用者の家族の写真やスタッフと共に作った作品を飾り。また、利用者や家族の希望にあわせ、馴染みの物を持ち込んで頂いている。	居室内の環境については入居時やその後も家族の協力を伝えている。テレビや収納家具、家族の写真、新聞の一面など希望される物品が持ち込まれている。ホーム備え付けのタンスも準備されており、スッキリと整頓された室内は、掃除や換気によって臭気もなく安全に過ごせる空間となっている。居室入口に設けられた窓枠は、習字やぬりえなど作品の掲示場所としても活用されている。	管理者は気持ちのよくなる様な室内にしていきたいと語っており、今後も居室や入り口の窓枠など、家族の協力も得ながらホッとできる空間に努めていきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を確保しながら、本人の好きな事、得意な事、出来る部分を活かしたケアを行なっている。		